

香川の医療 最前線

四国新聞社 平成29年4月7日付

335



産後や中高年の女性がかかりやすい「子宮脱」。膈内の違和感や排尿障害などが主な症状で、悪化すれば日常生活に支障をきたす。最新の治療法として注目が高まる腹腔鏡を使ったメッシュ手術法を、県内でいち早く導入したKKR高松病院女性泌尿器科の医長・平間裕美氏に、子宮脱治療の現状を聞いた。

（骨盤底筋）が緩むことが原因。その誘因となるのは、経産分娩による出産、おなかに過度の圧力がかかるような力仕事や長時間の立ち仕事、肥満や便秘など。さ

子宮が膈から出てきてしまつ病状。子宮が下がると膈が圧迫されて強い違和感を感じるようになる。歩きにくくなったり、排尿や排便がスムーズにできなくなったりするほか、膈から子宮が露出することにより出血を起すこともある。

（骨盤底筋）が緩むことが原因。その誘因となるのは、経産分娩による出産、おなかに過度の圧力がかかるような力仕事や長時間の立ち仕事、肥満や便秘など。さらに、閉経によって女性ホルモンが減ることや骨盤底筋が弱くなり、子宮が下がりにやすくなる。

の前後の壁を覆い、子宮を摘出した後、残った子宮頸部と仙骨前面の靭帯をメッシュでつなぐように固定する方法だ。この手術法は昨年4月に保険適用となり、当院では8月に導入して以来、

非常に高度な内視鏡技術が必要とするため、手術時間が4〜5時間かかる。また、過去に腹部の手術を受けた人にはお腹の中に癒着が起るが、その癒着の程度によっては、さらに手術時間が延びたり、LSC自体が行えない可能性もある。治療の際は患者にメリット・デメリットをしっかりと説明し、相談しながら最適な手術法を適用している。

# 子宮脱 腹腔鏡でメッシュ手術

## 再発や出血リスクを低減

「子宮脱の具体的な症状とは。子宮が膈から出てきてしまつ病状。子宮が下がると膈が圧迫されて強い違和感を感じるようになる。歩きにくくなったり、排尿や排便がスムーズにできなくなったりするほか、膈から子宮が露出することにより出血を起すこともある。」

「何が原因で起こるか。骨盤内で子宮を支えている靭帯や骨盤底部の筋肉製のシートで、たるんだ膈

「子宮脱の潜在患者は多いと聞く。子宮脱は直接命に関わる病気ではないが、生活の質を著しく下げってしまう。膈に異変を感じたら、早めに受診することが大切だ。当院の女性泌尿器科は、医師2人を含めスタッフは全員が女性。プライバシーに配慮し、外来中は男性の立ち入りを禁止しているので、安心して受診してほしい。」



「LSCのメリットは、何より再発率の低さが特長。メッシュを使わずに膈壁を縫い縮める従来の手術法は、再発率がおよそ30〜50%とされる。再発リスクを下げるために開発された膈側から膈壁にメッシュを埋める手術法（TVM）では、10〜15cmまで下がった。ただ、メッシュの埋め方が浅いと膈壁のただれや合併症を引き起こすリスクも高

**■ KKR高松病院女性泌尿器科**  
 2016年4月に開設。膀胱などの骨盤臓器脱の手術治療をはじめ、頻尿や残尿感、排尿時痛など泌尿器全般の病気を対象にしている。  
 所在地：高松市天神前4-18  
 電話：087(861)3261  
<http://www.kkr-ta-hp.gr.jp/>